

Idenow はエゾヤナギ節の 1 種で、カスピ海の北岸地帯に分布するカスピエゾヤナギとした。 *S. aegyptiaca* L. はわがパッコヤナギに近いものであるが、エジプトには野生はない。分布の中心地はイランであるので上記の名を下した。 *S. amygdaloïdes* Andersson は北米の特産で、わがマルバヤナギの幼木や若木の葉に似た葉をもち、同じくマルバヤナギ亜属に属する。 *S. aurita* L. は葉が小さく倒卵形で一寸ユスラウメの葉を想わすのでユスラバヤナギと命名した。 *S. × chrysocoma* Dode は枝のしだれた容姿まことにうるわしいヤナギで、冬期葉のない時小枝が美しい黄色を呈しているのでコガネシダレとした。英名 Golden Weeping Willow。 *S. fragilis* L. は小枝が外力によりポキッと音をたてて容易に基部から折れるのでポッキリヤナギと名付けた。独名 Knack-Weide、英名 Crack Willow、ともに折れる時の音をあらわす。 *S. glabra* Scopoli はかつてわがミヤマヤナギ *S. Reinii* Fr. & Sav. をこれにあてたことがあったが、互によく似ている。 *S. nigra* Marshall は北米の特産でマルバヤナギ亜属の世界における分布北限を代表するものであるが、小枝が特に基部から折れやすいので上記の名を与えた。 *S. tetrasperma* Roxburgh は分布の中心地印度をとてテングクヤナギとしたが、英名も Indian Willow である。 (仙台市 [REDACTED])

○ヌスピトハギ(広義)の白花 3 品種(大橋広好) Hiroyoshi OHASHI: White-flowered forms of *Desmodium podocarpum* DC. (Leguminosae)

ヌスピトハギ、マルバヌスピトハギ、ケヤブハギは非常に近縁で形態的によく似ており、ときに互いの間で誤って同定されている。最も安定した相違点は頂小葉の形、次は豆果の柄(子房の柄)の長さであり、この 2 つの形質を組み合わせて同定できればまず間違いは少ない。しかし稀にそれぞれの中間的な個体もある。以前、アジアのヌスピトハギとその近縁属構成種を調べた結果、これらを 1 種にまとめ、その中で亜種レベルで区別する新見解を発表した。学名の変更は Flora of Eastern Himalaya 第 2 報(1971) 中で行ったが、それぞれの変異、区別点などについては Ginkgoana No. 1 (1973) の中で述べた。命名規約上 *Desmodium podocarpum* DC. を母種としなければならないため、和名になおすとヌスピトハギがマルバヌスピトハギの亜種という形になってしまう。これはわれわれの理解と矛盾するので、和名を亜種のランクで学名に対応させ、*D. podocarpum* DC. を広義のヌスピトハギと呼ぶことにしたい。

広義のヌスピトハギに属する白花品として、従来シロバナヌスピトハギ、オキチハギ、シロバナケヤブハギが記録されている。オキチハギは下田で発見され、唐人お吉にちなんで命名されたもので、旗弁と翼弁が純白で竜骨弁が紅色という形である。ヌスピトハギとマルバヌスピトハギの原記載では花色に関する記載はなく、ケヤブハギの原記載では淡紅紫色または白色であることが明記されている。前の 2 亜種はネパール産の標本がタイプであるが、ネパールでもヒマラヤでもまだ白花品の記録はない。

ケヤブハギは日本、濟州島および中国からの多数の標本に基づいているが、この中には花が帶白色のヤブハギが混っているので、原記載で白花と書いているのはそれに基づくものである可能性が高い。これまで私の知る限りではススピトハギ、ケヤブハギ、マルバススピトハギ共に白花品の出現は非常に稀である。従って恐らくこれらのタイプでは花は普通にみられる淡紅紫色であろうから、上記の 3 白花品を基準形から区別しておいてもよいと思う。シロバナヌスピトハギとオキチハギのタイプは原記載では東大理学部植物学教室標本室となっているが、現存しない。シロバナケヤブハギのタイプは杉本順一氏の所有で、私は確認していない。

命名上の扱いは以下のようにになる。

1) *Desmodium podocarpum* DC. subsp. *oxyphyllum* (DC.) Ohashi var. *oxyphyllum* f. *albiflorum* (Iwata) Ohashi, stat. nov. シロバナヌスピトハギ (岩田 1940).

D. podocarpum DC. var. *albiflorum* Iwata in Bot. Mag. Tokyo 54: 73 (Feb. 1940).

D. racemosum (Thunb.) DC. f. *albiflorum* Tuyama ex Toyama in Nagasaki-ken Shokubutsu-shi 47 (Oct. 1940), nom. nud. - Sugimoto, Key Jap. Dicot. 273 (1965).

D. racemosum DC. f. *albiflorum* Y. Kimura ex Honda, Nom. Pl. Jap. ed. emend. 128 (1957), nom. nud.

D. oxyphyllum f. *albiflorum* (Iwata) Sugimoto in Shizuoka-ken Shokubutsu-shi 279 (1967).

2) *D. podocarpum* subsp. *oxyphyllum* var. *oxyphyllum* f. **decorum** Iwata, 1.c. 73. オキチハギ (岩田 1940).

D. racemosum DC. f. *decorum* Sugimoto, Key Jap. Dicot. 273 (1965), comb. nud.

D. oxyphyllum DC. f. *decorum* (Iwata) Sugimoto in Shizuoka-ken Shokubutsu-shi 279 (1967).

3) *D. podocarpum* subsp. *fallax* (Schindler) Ohashi f. **album** (Sugimoto) Ohashi, comb. nov. シロバナケヤブハギ (杉本 1965).

D. racemosum DC. var. *dilatatum* DC. f. *album* Sugimoto, Key Jap. Dicot. 734 (1965).

D. fallax Schindler f. *album* Sugimoto, Shizuoka-ken Shokubutsu-shi 279 (1967), nom. illeg. (東京大学理学部附属植物園)